

【事例紹介】

アデレード大学健康科学部との
ジョイントディグリープログラム
-国際共同教育の可能性-

Joint Degree Program with the University of Adelaide,
Faculty of Health and Medical Sciences:
The Possibility of International Co-educational Program

名古屋大学医学系研究科研究科長補佐国際連携室室長 粕谷 英樹

KASUYA Hideki

(Associate Dean for International Affairs/ Chairman of Office of International Affairs,
Graduate School of Medicine, Nagoya University)

キーワード：ジョイントディグリープログラム、アデレード大学、国際共同教育、海外留学

名古屋大学大学院医学系研究科の国際連携に関する最近のトピックスとして2015年10月から開講された名古屋大学・アデレード大学国際連携総合医学専攻があります。これは大学院博士課程を対象としたジョイントディグリープログラムであり、私たちが日本で初めて経験したプログラムになります。この紙面を借りて私たちが初めて体験したジョイントディグリープログラムについて説明の機会を頂ければと思います。

アデレード大学は1874年に南オーストラリアに設立された公立大学で、オーストラリア全土で3番目に古い大学になります。オーストラリア版アイビー・リーグであるGroup of Eightに属し、名古屋大学が中心となって組織したAcademic Consortium 21 (AC21)のメンバー校となります。大学ランキングではQS 113位(2015-2016)、THE 149位(2015-2016)とオーストラリアを代表するトップ研究大学です。今までに5名のノーベル賞受賞者(ハワード・フローリー/ペニシリン抽出/生理学・医学賞、ロビン・ウォレン/ピロリ菌発見/生理学・医学賞、ヘンリー・ブラッグ、ローレンス・ブラッグ父子/X線結晶学/物理学賞、ジョン・クッツエー/文学賞)を輩出していますが、その内の2名が生理学・医学賞を受賞しています。The Queen Elizabeth HospitalとThe Royal

Adelaide Hospital の二つの関連病院を持ち、新たに新病院を現在建設中です。医学関連の研究概要としては、ヘリコバクターピロリ菌による慢性胃炎、胃癌との関連実証が有名で、その他に熱傷疾患ユニットがスプレー式植皮法を開発・特許取得、ベンチャー企業として収益を上げる等、産学一体となったトランスレーショナルリサーチ分野における高い研究レベルが評価されています。2014年に南オーストラリアを代表する最先端医学共同研究施設 SAHMRI (South Australian Health and Medical Research Institute) が完成し、周辺に病院施設や製薬会社の研究施設を集中させ、南オーストラリアの医学研究の一大拠点として州政府と国が進める研究を担っています。



写真 1 アデレード大学校舎

ジョイントディグリープログラムは大学院入学時から2つの大学に同時に入学し、2つの大学の正規の学籍を取得します。しかし、授業料はどちらか1校に納めればもう1校は免除されます。1年目は主たる指導教官のいる大学で学び、動物倫理、実験倫理を学び、自分の研究のテーマを主指導教官と共に明らかにした後に副指導教官のいるカウンターパートの大学へ移動し、2年生から4年生の前期までの間に最低1年以上滞在して研究を進めます。大学院の4年間を両大学で連携をとりながら研

究し、成果をまとめた暁には両大学連名の単一の Diploma が授与されます。こうした取り組みは異文化の中で他の研究者と協調してコミュニケーションを取ることで国際的視野を広げ、将来国外も視野に入れた研究を行える医化学分野の指導者になる素養を育みます。さらに学生を教育していくためには2つの研究室がお互いの研究内容を良く理解する事が重要となります。そうした意味では、このプログラムは学生の教育と共に国際共同研究を推し進めるプログラムであると言えます。

昨年10月にはアデレード大学で FAN meeting が開催されました。FAN meeting とはドイツの Freiburg 大学、Adelaide 大学、Nagoya 大学の頭文字をとって名付けられた3大学医学部会議です。毎年1回から2回の開催を持ち回りでおこなっており、昨年は名古屋大学でも開催し、今年のアデレード大学での開催となりました。今年はずでに5回目の開催となり、来年はフライブルグ大学での開催予定となります。これは3大学間で大学院博士課程を中心とした共同教育学術交流を行うことを目的としたものです。現在、名古屋大学とアデレード大学間、そしてフライブルグ大学とアデレード大学間でジョイントディグリープログラムが結ばれていますが残念ながら名古屋大学とフライブルグ大学間ではまだジョイントディグリープログラムは結ばれていません。しかし近い将来には名古屋大学とフライブルグ大学間でもジョイントディグリープログラムを締結し、3大学間で博士課程の学生が行き交うトライアングルを形成するのが最終的な構想です。

私たちのジョイントディグリープログラムは1人の個人の学生を対象としたものではありません。



写真2 名古屋大学医学部附属病院

ヨーロッパやアメリカで行われている個人を対象にしたものではなく、学部間レベルでのジョイントディグリープログラムです。この形は世界で初めての試みであり、日本型システムと言っても良いかも知れません。そうした意味では私たちは新しい経験をスタートさせたとと言えます。それはお互いの研究・教育の弱い分野、強い分野を知り、

お互いに相互補助しながら、2校で育成する人材

像の共通認識を明確に共有し、その中で学生を教育する新しい教育システムです。私たちはこの共通理念に沿って共通講義を開講し、時にはTV画面を通して、時には直接赴き、お互いの強みを活かした講義を開講します。具体的には例えば、モデルケースとなる国際的に活躍している研究者のサクセスストーリーを聞く機会を提供し、イメージトレーニングを行い、また、2国間にまたがる臨床研究、臨床治験を行うための方法について、時には企業から関係者を呼んで学ぶ機会を与えます。ダブルディグリーが例えば医学部と工学部から2つの学位を取得することが可能であるとすれば、ジョイントディグリーはあくまでも1つの学位であり、ダブルディグリーが広い知識を持つことを示すものであるならジョイントディグリーは1つの分野に深い見識を持つことを示す質的保証と言えるでしょう。

私たちの目標はこの新しいスタイルの教育システムの中で毎年少数の学生を卒業させることだけではありません。私たちの最終目標はお互いの大学の体質を国際共同研究（国際的ネットワーク）に馴染んだ体質に変える体質改善にあります。そして2校間の共同研究の数を増加させ、体質改善により国際共同研究が普通のこととして取り扱われる様にしたいと思います。そのために並行して共同研究のためのマッチングを行っています。これは学生のいない研究室も対象としています。そして、体質改善の中で大学（学部）の reputation を上げトップ100大学の中に地位を築くことを目標としています。こうした大学（学部）の体質改善は企業にとっても魅力的に映ると思います。特に私たち医学の分野では創薬、医工連携が企業にとっては良いターゲットになると思います。国際共同研究（国際的ネットワーク）や体質改善は2国間での臨床研究、臨床治験を容易にするでしょうし、また、その取り組みに合致する人材を教育して育成しようとしています。私たちの最終目標の中には International Research Center や International Training Center の開設も含まれています。このように私たちのジョイントディグリープログラムは学生を教育することだけでなく、医学部の体質改善を目指すものです。また、フライブルグ大学とは新たなジョイントディグリープログラムとしてフライブルグ大学の Spemann Graduate School と本医学部との連携について協議が行われ、今後このプログラムの策定を推進していくことで合意をしました。そしてさらに2017年4月からはスウェーデ

ンの Lund 大学医学部と名古屋大学・Lund 大学国際連携総合医学専攻を立ち上げ、新たなジョイントディグリープログラムを開始しました。現在、アデレード大学とのジョイントディグリープログラムに4名の学生、Lund 大学とのジョイントディグリープログラムに2名の学生が入学しています。こうした取り組みを通じて、さらなる大学間の関係強化と共同研究、プログラムの推進を行い、本医学部の国際化を発展させていく予定です。



写真3 アデレード郊外